

観光社会資本の事例

テーマ	木曾三川河口部のランドマーク・長良川河口堰	
【施設の状況写真】		
		
<p>木曾三川(木曾川・長良川・揖斐川)の雄大な流れの中、長良川河口のランドマークとして存する長良川河口堰は、全国的な観光地長島温泉を間近にし、観光目的の来所者も多い。</p>	<p>河口堰から約10km上流の長良川国際レガッタコース。(直線2000m・10レーンは世界有数)</p>	
【施設の利用写真】		
		
<p>長良川河口堰には、資料館のアクアプラザながらを始め、自然とのふれあいを深める施設などの見どころが多い。</p>	<p>上流部の水面を利用して、毎年木曾三川交流レガッタ大会が行われています。</p>	
【観光資源としての利用状況】		
<p>長良川河口堰は水害のない環境づくりとして、桑名市長島町はもとより長良川沿いの市町に多面的、複合的な効果をもたらしました。</p> <p>観光面では、大都市圏の名古屋市に近く、交通の便も良いことから全国的に有名な長島温泉やレジャーランドへの観光客が立ち寄ることも多くなっています。資料館アクアプラザながらでは、自転車の無料貸出を行って、老若男女が無理なく施設を見て廻ることができるようになっています。</p> <p>河口堰上流では、緩やかな流れの水面を利用して、海津市では毎年レガッタ大会が行われています。2005年(8月28日～9月4日)、アジアでは初めての世界ボート選手権大会(参加国数65カ国、選手数約1200人)が開催されました。</p>		

テーマ	木曾三川河口部のランドマーク・長良川河口堰
【社会資本の基礎データ】	
名称	長良川河口堰
所在地	三重県桑名市長島町十日外面136
事業名	長良川河口堰事業
事業主体	水資源開発公団（現独立行政法人水資源機構）
事業期間	昭和46年～平成7年
【社会資本の役割・効果】	
治水	長良川河口堰によって、塩水のそ上を防止することにより、大規模なしゅんせつが可能となりました。このしゅんせつが実施されたことにより、長良川の洪水(計画高水流量毎秒 7,500m ³ /s)を安全に流下させることができます。
利水	堰の上流水域が淡水化され、愛知県、三重県、及び名古屋市で、水道用水、工業用水として最大毎秒 22.5m ³ /s が利用できるようになりました。
【位置図】	
<p>The map shows the Nagara River Estuary Dam (長良川河口堰) in the center. To the north, it is connected to the Nagara River (長良川) and the Ise Bay (伊勢湾). Major roads include National Route 20 (国道20号線) and National Route 1 (国道1号線). Key facilities include the Nagara IC (長良IC), Ise Six Bridge (伊勢六橋), and the Akua Plaza Nagara (アクアプラザながら). Other landmarks include the Nagara River Estuary Dam (長良川河口堰), the Nagara River Estuary Dam (長良川河口堰), and the Nagara River Estuary Dam (長良川河口堰).</p>	
【関連ホームページ】	
長良川河口堰ホームページ http://www.gix.or.jp/naga02/nagara/japanese/indexj.htm	
アクアプラザながらホームページ http://www.aquaplaza-nagara.jp/	
木曾三川公園センターホームページ http://www.kisosansenkoen.go.jp/	